

## 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	
<b>I 審議事項</b>					
<b>1. 委員会関係</b>					
提案1	(幹事会附置委員会) 危機対応科学情報発信委員会 (1)設置及び運営要綱の決定	(1)会長	B(5)	危機・緊急時における科学情報の発信について平素から備えて検討し、その検討結果を定期的に幹事会及び国民に報告するため、日本学術会議会則第25条第1項の幹事会附置委員会として委員会の設置及び運営要綱を決定する必要があるため。	高橋幹事
提案2	(機能別委員会) 科学者委員会 (1)分科会委員の決定(新規1件)	(1)会長	B(7)	科学者委員会における分科会の委員を決定する必要があるため。	三成副会長
提案3	(分野別委員会) (1)委員会及び分科会委員の決定(【委員会及び分科会】新規1件、【小委員会】追加1件)	(1)各部部长	B(9-10)	分野別委員会における委員等を決定する必要があるため。	会長 各部部长
<b>2. 提言等関係</b>					
提案4	報告「農業経済学の学部教育のあり方」について日本学術会議会則第2条第4号の「報告」として取り扱うこと	農学委員会委員長	C(1-43)	農学委員会農業経済学分科会において、報告をとりまとめたので、関係機関等に対する報告として、これを外部に公表したいため。 <b>※第二部査読</b>	農学委員会農業経済学分科会小田切委員長
提案5	提言「我が国における微生物・病原体に関する教育リテラシー」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	基礎医学委員会委員長	C(45-70)	基礎医学委員会病原体学分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 <b>※第二部査読</b>	基礎医学委員会病原体学分科会桑野剛一委員長、岡本尚副委員長
<b>3. 国際関係</b>					
提案6	平成31年度代表派遣について (1)代表派遣実施計画の決定 (2)実施計画に基づく4-9月期の会議派遣者の決定	会長	B(11-16)	平成30年度代表派遣について、代表派遣実施計画の決定をするとともに、実施計画に基づき4-9月期の会議派遣者を決定する必要があるため。 <b>※(1)国際委員会2月28日承認</b>	武内副会長

提案7	平成30年度代表派遣について、実施計画の変更をすること	会長	B(17)	平成30年度代表派遣について、実施計画の変更を決定する必要があるため。	武内副会長
提案8	平成31年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針の決定について	会長	B(19-20)	平成31年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣について、基本方針を決定する必要があるため。  ※国際委員会2月28日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会1月22日承認	武内副会長
提案9	平成31年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の決定について	会長	B(21)	平成31年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定する必要があるため。  ※国際委員会2月28日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会1月22日承認	武内副会長
提案10	平成31年度フューチャー・アースに関するAC（諮問委員会）及びGC（評議会）、海表面及び下層大気に関する国際会議（SOLAS）への招へい者の決定について	会長	B(23-24)	平成31年度フューチャー・アースに関する国際会議等へ外国人招へいについて決定する必要があるため。  ※国際委員会2月28日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会1月22日承認	武内副会長
提案11	平成31年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を決定すること	会長	B(25-26)	平成31年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣について、基本方針を決定をする必要があるため。  ※国際委員会2月28日承認、同アジア学術会議等分科会2月20日	武内副会長

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等  
【平成31年度第1四半期】追加募集

提案12	学術フォーラム「産学共創の視点から見た大学のあり方」の開催について	会長	B(31-32)  ※全体概要 B(27-29)	主催：日本学術会議 日時：平成31年5月22日（水） 13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂	-
提案13	学術フォーラム「グローバル政策ネットワークと国際機関—東アジア通貨金融秩序を中心に—」の開催について	会長	B(33-34)	主催：日本学術会議 日時：平成31年6月28日（金） 13:30～17:00 場所：京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウム・ホール	-

## 5. その他のシンポジウム等

提案14	公開シンポジウム 「物質と文化—文化財の保存と活用を巡る諸状況」	哲学委員会委員長	B(35-36)	主催：日本学術会議哲学委員会芸術と文化環境分科会 日時：平成31年3月5日（火） 13：30～17：00 場所：東京国立文化財研究所セミナー室 <b>※第一部承認</b>	—
提案15	公開シンポジウム 「環境変動にともなう生態系の応答を測る」	農学委員会委員長、環境学委員会委員長	B(37-38)	主催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、環境学委員会環境科学分科会 日時：平成31年5月16日（木） 13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂 <b>※第二部及び第三部承認</b>	—
提案16	公開シンポジウム 「小児期・青年期からの食生活習慣の見直しと生活習慣病予防」	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	B(39-40)	主催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会 日時：平成31年5月18日（土） 15：30～17：30 場所：静岡県立大学草薙キャンパス看護学部棟4F 13411室 <b>※第二部承認</b>	—
提案17	公開シンポジウム 「機械工学の将来展望：イノベーション創出に向けた次の一手」	機械工学委員会委員長	B(41-42)	主催：日本学術会議機械工学委員会機械工学の将来展望分科会 日時：平成31年4月16日（火） 13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂 外3室 <b>※第三部承認</b>	—
提案18	公開ワークショップ 「Future Earth と学校教育：海の学びと人材育成」	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長	B(43-44)	主催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会 日時：平成32年6月9日（日） 14：00～17：00 場所：東京大学大学院教育学研究科357講義室・358講義室	—

## 6. 後援

<p>提案19</p>	<p>国内会議の後援をすること</p>	<p>会長</p>	<p>ー</p> <p>以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。</p> <p>①<u>国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革～カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組～」</u>          主催：東北大学高度教養教育・学生支援機構          期間：平成31年3月2日(土)          13:30～17:00          場所：東北大学青葉山キャンパス 青葉山コモンズ2階大講義室          申請者：国立大学法人東北大学高度教養教育・学生支援機構機構長 滝澤博胤  <b>※第一部、第二部、第三部承認</b></p> <p>②<u>日本天文学会ジュニアセッション</u>          主催：公益社団法人日本天文学会          期間：平成31年3月17日(日)          場所：日本天文学会春季年会会場          参加予定者数：約500名          申請者：公益社団法人日本天文学会 会長 柴田一成  <b>※第三部承認</b></p>	<p>会長</p>
-------------	---------------------	-----------	---	-----------

## II その他

	<p>件名</p>	<p>資料</p>
<p>1.</p>	<p>今後の総会及び幹事会開催予定            次回幹事会は3月28日(木)13時30分開催</p>	<p>参考1</p>
<p>2.</p>	<p>報告「子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題—現在の科学的知見を福島で生かすために—」に関する質問に対する前回回答の報告</p>	<p>参考2</p>

(案)

●危機対応科学情報発信委員会運営要綱

〔平成 年 月 日  
日本学術会議第 回幹事会決定〕

(設置)

第 1 危機対応科学情報発信委員会（以下「委員会」という。）は、日本学術会議会則第 25 条第 1 項に基づく委員会として幹事会に附置する。

(任務)

第 2 危機・緊急時における科学情報の発信について平素から備えて検討し、その検討結果を定期的に幹事会及び国民に報告する。

(組織)

第 3 委員会は、会員又は連携会員 20 名程度をもって組織する。

(設置期限)

第 4 委員会は、平成 32 年 9 月 30 日まで置かれるものとする。

(庶務)

第 5 委員会の庶務は、事務局企画課及び参事官（審議第一担当）において処理する。

(雑則)

第 6 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。



【機能別委員会】

○委員の決定（新規 1 件）

（科学者委員会軍事的安全保障研究声明に関するフォローアップ分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
佐藤 岩夫	東京大学社会科学研究所長、教授	第一部会員、 第一部部長	副会長
橋本 伸也	関西学院大学文学部教授	第一部会員、 第一部幹事	副会長
大杉 立	東京農業大学客員教授	第二部会員	副会長
深田 吉孝	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 教授	第二部会員	第二部
相澤 彰子	国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教 授	第三部会員	第三部
大倉 典子	芝浦工業大学工学部教授・学長補佐	第三部会員	第三部
藤井 良一	大学共同利用機関法人 情報・システム研 究機構長	第三部会員	副会長
渡辺 芳人	名古屋大学理事・副総長	第三部会員	副会長
川口 慎介	国立研究開発法人海洋研究開発機構研究員	連携会員	副会長
岸村 顕広	九州大学大学院工学研究院応用化学部門・ 九州大学分子システム科学センター准教授	連携会員	副会長
小森田 秋夫	神奈川大学特別招聘教授	連携会員	第一部
玉野 和志	首都大学東京人文科学研究科教授	連携会員	第一部





【分野別委員会】

【委員会及び分科会】

○委員の決定（新規 1 件）

（臨床医学委員会感覚器分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
飯野 ゆき子	自治医科大学総合医学第2講座 名誉教授・客員教授	連携会員
石田 晋	北海道大学大学院医学研究院眼科学教室教授	連携会員
石橋 達朗	九州大学理事・副学長	連携会員
伊藤 壽一	滋賀県立総合病院研究所長	連携会員
大野 京子	東京医科歯科大学教授	連携会員
小椋 祐一郎	名古屋市立大学大学院医学研究科教授（視覚化学）	連携会員
岸本 誠司	亀田総合病院頭頸部外科部長	連携会員
坂本 泰二	鹿児島大学医学部教授	連携会員
高橋 政代	国立研究開発法人理化学研究所多細胞システム形成研究センター網膜再生医療研究開発プロジェクト プロジェクトリーダー	連携会員
坪田 一男	慶應義塾大学医学部眼科学教室教授	連携会員
寺崎 浩子	名古屋大学大学院医学系研究科教授	連携会員
西田 幸二	大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学（眼科学）教授	連携会員
山嵜 達也	東京大学医学部耳鼻咽喉科教授	連携会員
松本 有	東京大学医学部附属病院耳鼻咽喉科特任講師	連携会員
湯澤 美都子	日本大学医学部視覚科学系眼科学分野教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（追加1件）

（土木工学・建築学委員会企画分科会環境工学連合小委員会）

氏名	所属・職名	備考
浅見 真理	国立保健医療科学院生活環境研究部水管理研究 領域上席主任研究官	第三部会員

## 平成 31 年度代表派遣実施計画（案）

## &lt; 第 1 区分 &gt;

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
1	IAP 総会・理事会	2019/4/8～2019/4/11	松島 (韓国)	2
2	太陽地球系物理学科学委員会 (SCOSTEP) 総会等	2019/7/8～2019/7/17	モントリオール (カナダ)	1
3	第 27 回国際測地学・地球物理学連合 (IUGG) 総会	2019/7/8～2019/7/18	モントリオール (カナダ)	2
4	第 20 回国際第四紀学連合 (INQUA) 大会	2019/7/25～2019/7/31	ダブリン (アイルランド)	1
5	国際生物学連合 (IUBS) 総会	2019/7/29～2019/8/2	オスロ (ノルウェー)	2
6	第 16 回国際科学哲学・方法・論理会議 (IUHPST) 総会等	2019/8/5～2019/8/10	プラハ (チェコ)	1
7	第 23 回アジア社会科学研究協議会連盟 (AASSREC) 総会	9 月下旬～10 月上旬	ハノイ (ベトナム)	2
8	第 24 回国際社会科学団体連盟 (IFSSO) 総会、理事会等	2019/10/12～2019/10/13	シャンルウルファ (トルコ)	1
9	世界工学団体連盟 (WFEO) 総会	2019/11/18～2019/11/24	メルボルン (オーストラリア)	1
10	国際地質科学連合 (IUGS) 総会・第 36 回 万国地質学会議、理事会等	2020/3/1～2020/3/8	デリー (インド)	1
				14

## &lt; 第 2 区分 &gt;

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
1	ISC アジア・太平洋地域委員会定例会合	2019/4/8～2019/4/9	クアラルンプール (マレーシア)	1
2	国際天文学連合 (IAU) 役員会、国際天 文学連合 100 周年記念式典	2019/4/11～2019/4/12	ブリュッセル (ベルギー)	1
3	北極科学サミット週間 2019、国際北極 科学委員会 (IASC) 評議員会	2019/5/22～2019/5/30	アルハンゲリスク (ロシア)	1
4	第 7 回太陽地球系物理学科学委員会 (SCOSTEP) VarSITI 運営会議	2019/6/10～2019/6/14	ソフィア (ブルガリア)	1
5	第 4 回国際学術会議 (ISC) 理事会	6 月頃	パリ (フランス)	1
6	国際自動制御連盟 (IFAC) 理事会等	2019/9/6～2019/9/8	ウィーン (オーストリア)	1
7	IAP 理事会	9 月頃	未定	1
8	アジア科学アカデミー・科学協会連合 (AASSA) 理事会	9 月頃	ソウル (韓国)	1
9	第 5 回国際学術会議 (ISC) 理事会	10 月頃	パリ (フランス)	1
10	ISC アジア・太平洋地域委員会定例会合	10 月頃	未定 (インドネシア)	1
11	国際科学史技術史科学哲学/科学史技術 史部門 (IUHPS/DHST) 評議会	2019/12/7～2019/12/8	プラハ (チェコ)	1
12	国際地質科学連合 (IUGS) 理事会等	2020/1/22～2020/1/26	マドリッド (スペイン)	1

< 第 2 区分 >

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
13	宇宙空間研究委員会(COSPAR)第90回理事会	2020/3/16~2020/3/19	パリ (フランス)	1
14	宇宙空間研究委員会(COSPAR)第43回総会プログラム委員会・科学諮問委員会	2020/3/16~2020/3/18	パリ (フランス)	1
				14

< 第 3 区分 >

番号	会議名	会期	開催地	派遣人数
1	フューチャーアース諮問委員会、評議会	2019/4/2~2019/4/4	ストックホルム (スウェーデン)	1
2	欧州地球科学連合 2019 年度総会	2019/4/7~2019/4/12	ウィーン (オーストリア)	1
3	GYA 総会 2019	2019/4/28~2019/5/3	ハーレ (ドイツ)	3
4	第 6 回防災グローバル・プラットフォーム会議 2019	2019/5/13~2019/5/17	ジュネーブ (スイス)	1
5	哲学系諸学会国際連合運営委員会及び付帯コンフェランス	2019/5/22~2019/5/24	サラエボ (ボスニア・ヘルツェゴビナ)	1
6	第 3 回世界科学フォーラム (WSF) 運営委員会	2019/5/23~2019/5/24	ブダペスト (ハンガリー)	1
7	G サイエンス学術会議 2019 共同声明手交式	5 月頃	パリ (フランス)	1
8	アジア科学アカデミー・科学協会連合 (AASSA) 地域ワークショップ	6 月頃	コロンボ (スリランカ)	1
9	第 4 回各国若手アカデミー会議	2019/7/31~2019/8/2	ダナン (ベトナム)	1
10	第 13 回アジア栄養学会議	2019/8/4~2019/8/7	バリ (インドネシア)	1
11	国際人類学民族科学連合 (IUAES)2019 年中間会議、役員会等	2019/8/26~2019/9/1	ポズナン (ポーランド)	1
12	第 35 回国際美術史学会世界大会	2019/9/1~2019/9/6	フィレンチェ (イタリア)	1
13	国際宗教学宗教史学会理事会	2019/9/13~2019/9/17	デルフォイ (ギリシャ)	1
14	国際地形学会地域大会	2019/9/19~2019/9/21	アテネ (ギリシャ)	1
15	地球大気化学国際協同研究計画(IGAC)研究推進委員会(SSC)年次会合	2019/10/28~2019/11/1	メキシコシティ (メキシコ)	1
16	Inter-Academy Seoul Science Forum (IASSF) 2019	10 月頃	ソウル (韓国)	1
17	世界科学フォーラム (WSF) 総会	2019/11/20~2019/11/23	ブダペスト (ハンガリー)	1
18	G サイエンス学術会議 2020	2020 年 3 月頃	ワシントン (米国)	3
19	S20 会合	未定	未定	2
20	STS フォーラム評議員会及び STS ワークショップ	未定	未定	1
21	International Commission of Human Genome Editing(国際ヒトゲノム編集委員会)	未定	未定	2
				27

平成 31 年度代表派遣実施計画に基づく 4-9 月期の会議派遣候補者

番号	会議名称	会 期		開催地 (国)	派遣候補者 (職 名)
			計		
1	フューチャーアース諮問委員会、評議会	4月2日 ～ 4月4日	3 日	ストックホルム (スウェーデン)	武内 和彦 第2部会員 (公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、 東京大学特任教授)
2	欧州地球科学連合 2019 年度 総会	4月7日 ～ 4月12日	6 日	ウィーン (オーストリア)	小崎 隆 連携会員 (愛知大学国際コミュニケーション学部教授、京都大学名誉教授)
3	ISC アジア・太平洋地域委員会 定例会合	4月8日 ～ 4月9日	2 日	クアラルンプール (マレーシア)	植松 光夫 連携会員 (東京大学大気海洋研究所名誉教授)
4	IAP 総会・理事会	4月8日 ～ 4月11日	4 日	松島 (韓国)	武内 和彦 第2部会員 (公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、 東京大学特任教授)
5	IAP 総会	4月9日 ～ 4月11日	3 日	松島 (韓国)	新福 洋子 特任連携会員 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 家族看護学講座准教授)
6	国際天文学連合 (IAU) 役員 会、国際天文学連合 100 周年 記念式典	4月11日 ～ 4月12日	2 日	ブリュッセル (ベルギー)	渡部 潤一 連携会員 (大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台教授)
7	GYA 総会 2019	4月29日 ～ 5月3日	5 日	ハーレ (ドイツ)	岩崎 渉 連携会員 (東京大学大学院理学系研究科准教授)

番号	会議名称	会 期		開催地 (国)	派遣候補者 (職 名)
8	GYA 総会 2019	4月28日 ～ 5月3日	6 日	ハーレ (ドイツ)	岸村 顕広 連携会員 (九州大学大学院工学研究院応用化学部門・ 九州大学分子システム科学センター准教授)
9	GYA 総会 2019	4月28日 ～ 5月3日	6 日	ハーレ (ドイツ)	新福 洋子 特任連携会員 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 家族看護学講座准教授)
10	第6回防災グローバル・プラット ホーム会議 2019	5月13日 ～ 5月17日	5 日	ジュネーブ (スイス)	西川 智 特任連携会員 (名古屋大学減災連携研究センター教授)
11	哲学系諸学会国際連合運営委 員会及び付帯コンフェランス	5月22日 ～ 5月24日	3 日	サラエボ (ボスニア・ヘル チェゴビナ)	納富 信留 連携会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)
12	北極科学サミット週間 2019、国 際北極科学委員会 (IASC) 評 議員会	5月22日 ～ 5月30日	9 日	アルハンゲリス ク (ロシア)	榎本 浩之 特任連携会員 (国立極地研究所副所長)
13	第3回世界科学フォーラム (WSF) 運営委員会	5月23日 ～ 5月24日	2 日	ブダペスト (ハンガリー)	武内 和彦 第2部会員 (公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、 東京大学特任教授)
14	第7回太陽地球系物理学科学 委員会 (SCOSTEP) VarSITI 運 営会議	6月10日 ～ 6月14日	5 日	ソフィア (ブルガリア)	塩川 和夫 特任連携会員 (名古屋大学宇宙地球環境研究所教授・副所長)
15	太陽地球系物理学科学委員会 (SCOSTEP) 総会等	7月8日 ～ 7月17日	1 日	モントリオール (カナダ)	

番号	会議名称	会 期		開催地 (国)	派遣候補者 (職 名)
16	第 27 回国際測地学・地球物理学連合(IUGG)総会、評議員会	7月8日 ～ 7月18日	11 日	モントリオール (カナダ)	中田 節也 連携会員 (千葉大学園芸学研究科教授)
17	第 27 回国際測地学・地球物理学連合(IUGG)総会、IAHS(水文)総会	7月8日 ～ 7月18日	11 日	モントリオール (カナダ)	辻村 真貴 特任連携会員 (筑波大学生命環境系教授)
18	第 20 回国際第四紀学連合(INQUA)大会	7月25日 ～ 7月31日	7 日	ダブリン (アイルランド)	出穂 雅実 特任連携会員 (首都大学東京人文社会学部准教授)
19	国際生物学連合(IUBS)総会	7月29日 ～ 8月2日	5 日	オスロ (ノルウェー)	西田 治文 連携会員 (中央大学理工学部教授)
20	国際生物学連合(IUBS)総会	7月29日 ～ 8月2日	5 日	オスロ (ノルウェー)	村上 哲明 特任連携会員 (首都大学東京大学院理学研究科教授)
21	第4回各国若手アカデミー会議	7月31日 ～ 8月2日	3 日	ダナン (ベトナム)	安田 仁奈 連携会員 (宮崎大学農学部海洋生物環境学科准教授)
22	第 13 回アジア栄養学会議	8月4日 ～ 8月7日	4 日	バリ (インドネシア)	加藤 久典 連携会員 (東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授)
23	第 16 回国際科学哲学・方法・論理会議(IUHPST)総会等	8月5日 ～ 8月10日	6 日	プラハ (チェコ)	岡本 賢吾 特任連携会員 (首都大学東京人文科学科教授)

番号	会議名称	会 期		開催地 (国)	派遣候補者 (職 名)
24	国際人類学民族科学連合 (IUAES)2019 年中間会議、役員会等	8月26日 ～ 9月1日	7 日	ポズナン (ポーランド)	小泉 潤二 連携会員 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構監事、 大阪大学名誉教授)
25	第 35 回国際美術史学会世界 大会	9月1日 ～ 9月6日	6 日	フィレンツェ (イタリア)	三浦 篤 連携会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)
26	国際自動制御連盟 (IFAC) 理 事会等	9月6日 ～ 9月8日	3 日	ウィーン (オーストリア)	石井 秀明 特任連携会員 (東京工業大学情報理工学院情報工学系准教授)
27	国際宗教学宗教史学会理事会	9月13日 ～ 9月17日	5 日	デルフォイ (ギリシャ)	藤原 聖子 第1部会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)
28	国際地形学会地域大会	9月19日 ～ 9月21日	3 日	アテネ (ギリシャ)	藁谷 哲也 特任連携会員 (日本大学文理学部地理学科教授)



平成 30 年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、平成 30 年度代表派遣実施計画の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	第3回 ISC 理事会	3 月頃	パリ (フランス)	植松 光夫 連携会員 (東京大学大気海洋研究所名誉教授)	代表派遣の取止め ※主催側の都合により
2	各国若手アカデミー会議	未 定	未 定	未 定	代表派遣の取止め ※来年度に延期
3	アジア若手アカデミー会合	未 定	未 定	未 定	代表派遣の取止め ※開催見込みなし
4	日本カナダ女性研究者交流	未 定	未 定	未 定	代表派遣の取止め ※派遣目途立たず



平成 31 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）

平成 31 年 ○ 月 ○ ○ 日  
日本学術会議第○○○回幹事会決定

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、平成 31 年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、平成 31 年度の内規第 51 条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第 1 区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、AC 及び GC は各一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第 2 区分

- ・フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究プロジェクトに関する会議、タスクフォース及び KAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第 3 区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。
- ・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりがあるものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

平成 31 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			

提案 9

平成 31 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アース レビュー・パネル	4月1日	1日	スウェーデン ストックホルム	西條 辰義 第1部会員 (高知工科大学教授)	第1区分
2	フューチャー・アース レビュー・パネル	4月1日	1日	スウェーデン ストックホルム	福士 謙介 連携会員 (東京大学教授)	第1区分
3	フューチャー・アース 諮問委員会及び評議会	4月1日 ～ 4月4日	4日	スウェーデン ストックホルム	春日文子 連携会員 (国立研究開発法人 国立環境研究所特任フェロー)	第1区分
4	フューチャー・アース 海表面 及び下層大気研究に関する国 際会議 (SOLAS)	4月21日 ～ 4月25日	5日	日 本 札幌	春日文子 連携会員 (国立研究開発法人 国立環境研究所特任フェロー)	第2区分



提案 10

平成 31 年度フューチャー・アース AC（諮問委員会）及び GC（評議会）、  
海表面及び下層大気研究に関する国際会議 (SOLAS) への招へい者について

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	招へい候補者氏名 役職 (国名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アース 諮問委員会及び評議会	4月2日 ～ 4月4日	3日	スウェーデン ストックホルム	リーナ・スリバスタバ(Leena Srivastava) フューチャー・アース諮問委員会メンバー (インド)	諮問委員会委員、 GCのco-chairとして 参加するため
2	フューチャー・アース 諮問委員会	4月2日 ～ 4月3日	2日	スウェーデン ストックホルム	オユン・サンジャスレン(Oyun Sanjaasuren) フューチャー・アース諮問委員会メンバー (モンゴル)	諮問委員会委員として 参加するため
3	フューチャー・アース 諮問委員会	4月2日 ～ 4月3日	2日	スウェーデン ストックホルム	ペン・ゴン(Peng Gong) フューチャー・アース諮問委員会メンバー (中国)	諮問委員会委員として 参加するため
4	フューチャー・アース 海表面 及び下層大気研究に関する国 際会議 (SOLAS) 及び SOLAS 運 営委員会	4月21日 ～ 4月28日	8日	日 本 札幌	アヌープ・マハジャン(Anoop Mahajan) 熱帯気候研究所 気象変動調査センター 上席研究員 (インド)	講演者及び SOLAS 運営委員会委員として 参加するため

5	フューチャー・アース 海表面 及び下層大気研究に関する国 際会議 (SOLAS)	4月21日 ～ 4月25日	5日	日 本 —— 札 幌	アンドリュー・レントン (Andrew Lenton) 南極気候環境システム調査センター 上席研究員 (オーストラリア)	講演者として参加 するため
6	フューチャー・アース 海表面 及び下層大気研究に関する国 際会議 (SOLAS)	4月21日 ～ 4月25日	5日	日 本 —— 札 幌	ジョナサン・アバット (Jonathan Abatt) トロント大学教授 (カナダ)	講演者として参加 するため
7	フューチャー・アース 海表面 及び下層大気研究に関する国 際会議 (SOLAS)	4月21日 ～ 4月25日	5日	日 本 —— 札 幌	マルセラ・コルネジョ (Marcela Cornejo) ヴァルパライソ・カトリック大学准教授 (チリ)	講演者として参加 するため



平成 31 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）

〔平成 31 年 ○ 月 ○ ○ 日  
日本学術会議第○○○回幹事会決定〕

アジア学術会議は、アジア域内での学術交流と協力を促進する基盤を提供し、全体論的な展望と構想を作り、その実現を諮ることを目的としており、その目的の達成は、アジア域内の各国に置いて参加国間の連絡調整を行い、学術に関する研究発表及び討論等を行う会議を開催することにより行うこととなっている。

アジア学術会議においては、日本学術会議が事務局を担っていること、また、日本学術会議連携会員が事務局長を務めていることから、平成 31 年度の国際会議等への代表者の派遣は下記の方針に基づいて行う。

(1) 第 1 区分

- ・アジア学術会議大会（国際シンポジウム、理事会、国際共同プロジェクト・ワークショップ等で構成）に、アジア学術会議事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。

(2) 第 2 区分

- ・アジア学術会議の開催・運営に関する会議である、アジア学術会議役員会議等に、アジア学術会議事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・次年度以降の開催準備に係る調整及び事前調査等に、アジア学術会議事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。

(3) 第 3 区分

- ・アジア学術会議の加盟機関拡大のため、アジア学術会議事務局長（連携会員）を含む会員等を非加盟機関本部等に派遣する。
- ・上記については本年度数回程度見込まれる。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

平成 31 年度アジア学術会議関連会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			

#### 4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成31年度第1四半期】追加募集

##### <概要>

##### 1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として 年間10回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【平成31年度第1四半期】追加募集 全2件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案12 [p. 31-32]	産学共創の視点から見た大学のあり方	平成31年 5月22日 (水)	日本学術 会議講堂	要	要
2	提案13 [p. 33-34]	グローバル政策ネットワークと国際機関—東アジア通貨金融秩序を中心に—	平成31年 6月28日 (金)	京都大学 国際科学 イノベーション棟 シンポジウム・ホール	要	不要

##### 2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度32回まで、及び 四半期ごとにおおむね8回  
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【平成31年度第1四半期】追加募集 全0件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
	提案なし			

(参考) .....

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム (平日 3 件/土日 0 件) 全 3 件 残り : 7 件

(内訳) ※現在の 3 件につき、すべて経費又は人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	0			
	(平日)	3			
合計		3			

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 (学術フォーラム含む) 全 4 件 残り : 28 件

(内訳)

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部	2			
	第二部	1			
	第三部	1			
	若手アカデミー	0			
	課題別	0			
学術フォーラム (土日)		0			
合計		4			

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	危機に瀕する学術情報の現状と その将来 Part2	平成 31 年 4 月 19 日 (金)	日本学術会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

	テーマ	開催日時	主催委員会等
1	「男女がともにつくる民主政治」を展望するー「政治分野における男女共同参画推進法」の意義 (仮) ー	平成 31 年 4 月 6 日 (土)	法学委員会ジェンダー法分科会

2	「産業動物と食の観点からの One health」	平成 31 年 5 月 25 日 (土)	食料科学委員会獣医学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会、食料科学委員会畜産学分科会
3	「子どもの戸外遊びが消滅！？ 遊びへの社会的介入としての移動式遊び（プレーバス）」	平成 31 年 6 月 1 日 (土)	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会
4	「横行する選考・採用における 性差別：統計からみる間接差別 の実態と課題」	平成 31 年 6 月 8 日 (土)	社会学委員会ジェンダー研究分科会



日本学術会議主催学術フォーラム「産学共創の視点から見た大学のあり方」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：日本経済団体連合会、経済同友会、国立大学協会、  
日本私立大学団体連合会（いずれも調整中）
3. 後 援：文部科学省、内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）  
（いずれも調整中）
4. 日 時：平成31年5月22日（水）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：あり

7. 開催趣旨：

現在、政府の様々な委員会で大学改革の具体的な計画が審議され、大学のあり方が問われている。このような状況の中、世界の動向を見据えた上で、日本の強みを発揮できる新たな方針を立てることが急務である。政府・産業界連携分科会はその緊急性を考慮して、大学と産業界両方の関係者が対等に議論し、近未来へ向けて双方が納得し推進できるための提言を發した。この提言をもとに、より広い産学関係者がそれぞれ講演をし、その講演をもとにこれからの大学のあり方について未来を担う若者が議論をする。

8. 次 第：

開会挨拶

山極 壽一（日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長）

趣旨説明

渡辺 美代子（日本学術会議副会長・第三部会員、科学技術振興機構副理事）

講演

「これからの大学～国立大学の視点」

五神 真（日本学術会議第三部会員、東京大学学長）（予定）

「これからの大学～私立大学の視点から」

（未定）

「これからの大学～地方大学の視点から」

（未定）

「産業界から大学への期待Ⅰ」

五十嵐 仁一（日本学術会議特任連携会員、経団連未来産業・技術委員会産学官連携推進部会長、JXTG エネルギー株式会社取締役常務執行役員）

「産業界から大学への期待Ⅱ」

小林 いずみ（日本学術会議特任連携会員、経済同友会副代表幹事、ANA 等）

「若手から見たこれからの大学」

岸村 顕広（日本学術会議連携会員・若手アカデミー代表、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・分子システム科学センター准教授）

「ベンチャー企業から見たこれからの大学」

出雲 充（ユーグレナ創業者）

「大学発ベンチャーの現状と未来」

森 勇介（大阪大学大学院工学研究科教授、創晶グループ3社取締役）

（ 休憩 ）

講演

「国立研究開発法人から大学への期待」

（未定）

「財団から大学への期待」

（未定）

パネル討論「これからの大学のあり方」

（ファシリテーター）小林 傳司（日本学術会議第一部会員、大阪大学理事・副学長）

（パネリスト）（未定）

会場との意見交換

閉会挨拶

山極 壽一（日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長）

（下線の講演者は、学術会議関係者）



日本学術会議主催学術フォーラム「グローバル政策ネットワークと国際機関—東アジア通貨金融秩序を中心に—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：京都大学公共政策大学院
3. 後 援：日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）「国際制度の衰微と再生の政治経済分析」（代表：鈴木基史）
4. 日 時：平成31年6月28日（金）13：30～17：00
5. 場 所：京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウム・ホール  
（京都府京都市左京区吉田本町）

6. 分科会等の開催：無

7. 開催趣旨：

現今、グローバル化が進展する中で、経済変動、気候変動、伝染病、人口移動などのグローバル問題の深刻化が懸念されている。その一方、国家間対立やポピュリズムによって国際政治が機能不全に陥っている状況で、問題解決に向け、国際機関と国家行政機関を連携したグローバル行政ネットワークに対する期待が高まっている。学問においても、グローバル行政ネットワークを考察する思考の枠組として、脱政府間主義やグローバル行政法などが提示され、その実態、課題、国際政策協調の可能性などについての研究が進展している。本シンポジウム（シリーズ）は、このような前提に立って、関係分野の研究者2名程度、国際機関の代表者、日本政府の代表者を糾合し、学問とグローバル行政との連携とその問題について多角的に議論すること目的とし、一般および大学生、大学院生、教職員などに公開するものである。同シリーズの第1回目となる、京都大学で開催予定のシンポジウムは、東アジアにおける通貨金融問題に焦点を当てる。

8. 次 第：

13:30-13:40 開会の辞

岩本 武和（京都大学公共政策大学院院長）

13:40-14:00 趣旨説明

鈴木 基史（日本学術会議連携会員、京都大学大学院法学研究科教授）

14:00-14:30 国際機関の視点から

根本 洋一（一橋大学国際公共政策大学院教授、前ASEAN+3マクロ経済調査事務局（AMRO）事務長）

14:30-15:00 中央銀行の視点から  
福本 智之（日本銀行国際局審議役）

15:00-15:10 休憩

15:10-15:40 経済学の視点から  
岩本 武和（京都大学公共政策大学院教授）

15:40-16:10 政治学の視点から  
飯田 敬輔（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

16:10-17:00 討論  
司会  
古城 佳子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

（下線の講演者は、学術会議関係者）

公開シンポジウム「物質と文化—文化財の保存と活用を巡る諸状況」の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会芸術と文化環境分科会
2. 共 催：独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所、学習院大学人文研共同プロジェクト「前近代日本の造形における古典知の再構築」
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 31 年 3 月 5 日（火）13：30～17：00
5. 場 所：東京文化財研究所セミナー室
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：社会が変化するにつれて、文化のありかたと文化に対する期待は変容し続けてきた。その中で、人々の創造活動の成果として、あるいはかつての文化を体現する物質として存在する文化財もまた、変容を免れない。特に、デジタル技術が急激に進展し、私たちの日常の隅々にまで行き渡っている現在、図像や音響は、データとして手軽に取り扱われている。そうした現在だからこそ、文化財をめぐる状況を今一度見渡し、文化財の理念と保護をめぐる実践と可能性について議論をする必要があるだろう。このシンポジウムは、上述の関心を共有し、深化させることを目的とする。登壇者が取り組んできた時代、媒体、領域はそれぞれ異なっており、かつては文化財とは扱われてなかった領域をも含んでいる。それゆえに、文化とは何かという問題についての再検討をも含むものとなるだろう。

8. 次 第：

司会・趣旨説明：佐野みどり（日本学術会議連携会員、学習院大学文学部教授）

第一部

13：30 基調講演

山梨絵美子（東京文化財研究所副所長）「分類されたモノたちを結びつける試み」

14：10 報告 1

島尾新（学習院大学文学部教授）「水墨画の保存と活用」

14：40 報告 2

石田美紀（日本学術会議連携会員、新潟大学准教授）「アニメ映画中間素材とアーカイブ」

15：10 第一部コメント

小田部胤久（日本学術会議連携会員、東京大学人文社会系研究科教授）

第二部

15：20 報告3

京谷啓徳（九州大学文学部准教授）「大学がSPレコード・コレクションを所有するということ——その保存と活用」

15：50 報告4

小林牧（国立文化財活用センター副センター長）「ホンモノか、複製か——文化財活用をめぐる課題と実践」

16：20 パネルディスカッション

司会 武田宙也（日本学術会議連携会員、京都大学総合人間学部准教授）

コメンテーター 米倉廸夫（東京文化財研究所名誉所員）

廣海伸彦（出光美術館学芸員）

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「環境変動にともなう生態系の応答を測る」開催について

1. 主 催：農学委員会農業生産環境工学分科会、環境学委員会環境科学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本農業気象学会、日本生物環境工学会、日本農学アカデミー、日本農業工学会、日本リモートセンシング学会、日本生態工学会、JapanFlux（予定）
4. 日 時：平成31年5月16日（木）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：農業生産環境工学分科会について開催予定

7. 開催趣旨：

森林や農地などの陸域生態系は、温室効果気体である二酸化炭素の吸収・固定により地球温暖化を抑制し、蒸発散を通じて気候を改善するなど、様々な環境調節機能を有している（生態系サービス）。一方、植物から放出される反応性の有機気体は反応性が高く大気汚染の原因になることも知られている。しかし、地球温暖化や、それに伴って増加すると予測される気象災害、また大気汚染、放射能汚染などの環境変動は生態系にストレスを与え、将来的には地球・地域の環境における生態系の環境調節的な役割が期待できなくなるかもしれない。それでは、このような環境変動に対して生態系はどのように反応し、環境調節機能はどれだけ変化するのか？将来の環境を正しく予測するには、環境変動に対する生態系の応答（反応）を正しく見積もる必要がある。本シンポジウムでは、植物の DNA から、葉、個体、生態系、あるいは土壌を対象に、様々な環境変動に対する植物・生態系の応答をどのように測るのか、測った結果から何がわかったのか、さらには得られた知見を地球規模に拡張した結果について、5名の講演者に紹介していただく。また、総合討論では、関連した研究分野における研究の方向性などについて議論する。

8. 次 第：(予定)

13:00 開会挨拶

仁科弘重（日本学術会議第二部会員、愛媛大学理事・副学長）

13:05 趣旨説明

平野高司（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授）

講演：

司会：平野高司（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授）

- 13:10 植物の環境ストレス影響を DNA で検出する  
青野光子（日本学術会議連携会員、国立環境研究所生物・生態系環境研究センター室長）
- 13:40 植物による反応性有機ガスの放出と環境との相互作用  
谷 晃（日本学術会議連携会員、静岡県立大学食品栄養科学部教授）
- 14:10 森林土壌は温暖化を加速するのか？  
梁 乃申（国立環境研究所地球環境研究センター室長）
- <休憩>
- 15:00 地上観測ネットワーク、衛星観測データを利用した陸域 CO<sub>2</sub>収支の広域推定  
市井和仁（千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授）
- 15:30 植物のクロロフィル蛍光のリモートセンシング —細胞から衛星観測まで—  
大政謙次（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）
- <休憩>
- 16:15 総合討論  
進行：平野高司（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授）
- 16:50 閉会挨拶  
真木太一（日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部及び第三部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「小児期・青年期からの食生活習慣の見直しと生活習慣病予防」の  
開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会
2. 共 催：公益社団法人日本栄養・食糧学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 31 年 5 月 18 日（土） 15：30～17：30
5. 場 所：静岡県立大学草薙キャンパス看護学部棟 4F 13411 室
6. 分科会等の開催：なし
7. 開催趣旨：
 

第 24 期日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会では、前期からの継続課題として若い世代（子供から 40 歳前まで）を対象とした生活習慣病予防対策に特に重点を置いた提言を表出する予定である。40 歳で健診が始まるいわゆるメタボ健診により、生活習慣病の早期発見と予防・治療対策が進められたが、それ以前の若い世代は、社会人として独り立ちして将来の生活習慣を決定する大事な時期であるにもかかわらず、また妊娠出産による次世代への影響を決定する重要な時期にもかかわらず、現在予防対策が抜け落ちている。「食」は、若年期からの対策が特に重要な生活習慣であると考えられ、第 73 回日本栄養・食糧学会の公開講座において、栄養や食に関連する研究者や一般参加者と課題を共有し意見交換を行うことで、提言作成に役立てる。
8. 次第（予定）：
 

座長 藤原葉子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系教授）  
吉田 博（東京慈恵会医科大学大学院代謝栄養内科学教授）

  - 1) わが国における生活習慣病予防対策-日本学術会議のこれまでの取り組み  
八谷 寛（日本学術会議連携会員、藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教授）
  - 2) 成長期からの生活習慣病予防対策-生活によりそうという視点の重要性  
塚原典子（日本学術会議連携会員、帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授）
  - 3) 若い世代からの生活習慣病予防と健康教育  
桑野稔子（静岡県立大学食品栄養科学部教授）
  - 4) 若い世代の生活習慣病と食生活 現状と対策  
谷内洋子（千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科准教授）
  - 5) 大学学部教育における食育-大学生の真の実態と教育効果-  
垣原登志子（愛媛大学 教育・学生支援機構准教授）

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)



公開シンポジウム「機械工学の将来展望：イノベーション創出にむけた次の一手」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会機械工学の将来展望分科会
2. 共 催：一般社団法人機械学会、公益社団法人空気調和衛生工学会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人可視化情報学会、公益社団法人日本マリンエンジニアリング学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人原子力学会、公益社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人精密工学会、公益社団法人 日本ガスタービン学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人トライボロジー学会（予定）

3. 日 時：平成 31 年 4 月 16 日（火）13：00～17：00

4. 場 所：日本学術会議 講堂 外 3 室

5. 分科会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

機械工学は従来の「材料力学」、「流体力学」、「熱力学」、「機械力学」を基盤とした四力学の枠組みを超え、様々な新しい分野との融合が進み、新しい局面を迎えている。そこで、イノベーションの創出、および社会や国民へのさらなる貢献していくために、機械工学のあり方について再考し、機械工学の将来展望についての議論を深める。

7. 次 第：

司 会：塩見 淳一郎

（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

13:00 開会の挨拶

大島 まり（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報学環・生産技術研究所教授）

13:10 「脱炭素社会を目指す革新的反応性」

藤田 修（日本学術会議連携会員、北海道大学工学研究院教授）

- 13:30 「分子・原子およびナノスケール組織構造化による新奇熱マネジメントの創成（仮）」  
花村 克悟（東京工業大学工学院教授）
- 13:50 「ナノ加工の時代！5 ミクロン精度の壁を越えるには！！」  
青山 英樹（慶應義塾大学理工学部教授）
- 14:10 休憩
- 14:30 「計測・予測・制御の同化技術 ～新ものづくり産業を開拓する保存則と機械学習の融合」  
村井 祐一（北海道大学工学研究院教授）
- 14:50 「バイオハイブリッドが拓く新たな機械工学」  
竹内 昌治（東京大学生産技術研究所教授）
- 15:10 「力学基盤研究ネットワークの形成（仮）」  
岸本 喜久雄（日本学術会議連携会員 東京工業大学名誉教授）
- 15:30 休憩
- 15:50 パネルディスカッション
- 16:50 閉会の挨拶  
菱田 公一（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学理工学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開ワークショップ「Future Earth と学校教育：海の学びと人材育成」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会  
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：2019年6月2日（日）14：00～17：00
5. 場 所：東京大学大学院教育学研究科 357 講義室・358 講義室
6. 分科会等の開催：なし
7. 開催趣旨：Future Earth では、科学と社会の協働による Co-design、  
Co-production の推進が強く求められており、なかでも科学と学校教育との協働の推進は、未来を担う若者の育成・成長に直結する喫緊の課題である。一方学校教育の現場では、持続可能な社会を目指す ESD(持続可能な開発のための教育)や SDGs (持続可能な開発目標) への取組が広がりつつある。当分科会は、そのような活動の推進について中学・高校生や大学生を含む広範な人々と共に議論するための日本学術会議公開シンポジウム（ないし学術フォーラム）を2019年7～9月を目途に開催することを目指しており、それを文字通り「科学と社会の協働」により企画（Co-design）する方針である。本ワークショップはその一環として開催するものであり、分科会委員と現場教員の報告をもとに、学校の教員・生徒を含む参加者全員で当該シンポジウム（ないし学術フォーラム）の形態、扱うべきテーマと扱い方、科学と学校教育とのつながりの強化およびそれと関連する問題などについて考えるものである。具体的には、「Future Earth と学校教育：海の学びと人材育成」というテーマを掲げ、海と人との関係性や海の教材化について学び、海を通じた人材育成について考えていく。
8. 次 第：
  - 総合司会：鈴木康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）
  - 14:00～14:05 開会挨拶  
氷見山幸夫（日本学術会議連携会員、北海道教育大学名誉教授）
  - 14:05～14:20 趣旨説明  
日置 光久（日本学術会議連携会員、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター特任教授）

- 14:20～14:35 報告1 「教室での実験で調べる海の仕組み」  
丹羽 淑博（東京大学海洋アライアンス特任准教授）
- 14:35～14:50 報告2 「全国で行われている「海洋教育」の実態と課題」  
川上 真哉（東京大学海洋教育促進研究センター特任研究員）
- 14:50～15:05 報告3 「マイ・ユニ飼育から考える海の学び」  
小川 博久（君津市立久留里中学校校長）
- 15:05～15:20 報告4 「海をテーマにしたSSH 課題研究」  
田中 義靖（東京都立戸山高等学校教諭）
- 15:20～15:30 （ 休憩 ）
- 15:30～16:55 ディスカッション  
司会：山形 俊男（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構特任上席研究員）
- 16:55～17:00 閉会挨拶  
花木 啓祐（日本学術会議連携会員、東洋大学情報連関学部教授）

9. 関係部の承認の有無：

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会承認

10. 申し込み方法・連絡先：

川上 真哉（東京大学特任研究員）kawakami@oa.u-tokyo.ac.jp  
（定員になり次第締め切り）